

蔵書の受入れにあたって

丸山眞男文庫準備委員長 大 隅 和 雄

丸山先生の蔵書が、東京女子大学に寄贈されることになってから一年、その間に、受け入れの具体的なことについて相談を重ねてきた。

先生の書齋の隣室の書庫、そこに収まりきれなくなって、別室第二書庫に、さらに別棟の第三書庫に収められた図書雑誌の総数は、三万冊にのぼる。

また、書庫には、草稿、論考の構想のメモ、印刷を終えて戻ってきた原稿、史料の抜き書き、講義ノートなどを納めた箱が積み重ねられており、それも三万頁に及ぶと推定されている。

蔵書の中には、まず、先生の政治学、思想史学の理論や方法の基礎となった、外国語の文献があり、日本の近世、近代の思想史の基礎的な典籍が揃っている。近世思想史研究のために、手元に置かれた漢籍も少なくないし、日本政治思想史の講義のために参照された古代、中世の古典、また仏教の典籍も多い。

基本文献とその研究書が揃えられ、さらに、先生が関心を寄せられ

た作家の全集をはじめ、文学、音楽、美術の本が並んでいて、先生の学問の広さと深さを目のあたりにする思いがする。

図書館としては、まず収納書架の準備にとりかからなければならぬ。種々の条件を検討して、地下書庫の一面に、丸山眞男文庫のコナーを作ることになり、移動式の集密書架に改める工事の相談が行われている。

丸山先生の手沢本の中には、書き込みなどのある本が多く、それは、自筆資料とともに、今後、丸山眞男研究の貴重な資料になるに違いない。

その整理には、こまかな配慮と多くの時間を要するが、東京女子大学図書館は、将来、丸山眞男文庫を中心に、昭和という時代の、日本人とその思想の研究の、一つの拠点になることをめざして、文庫の保存と運営をして行きたいと考えている。

今年度末には、蔵書の移転がはじまるが、整理に特別手間のかから

ない本から、順次利用できるようにして行きたいと考えている。

〔『東京女子大学学報』五三三号、一九九九年一月号の「特集 丸山眞
男文庫」所収〕